

学生の利用需要に応えたデマンドバス実証運行の結果報告

～大崎上島～

株式会社地域未来研究所 大崎上島町 広島商船高等専門学校 富士通Japan株式会社
 松本浩和 田中雅宣 貞松純子
 川本亮之 末廣大樹
 岡山正人 平賀典生 上坂晃慎

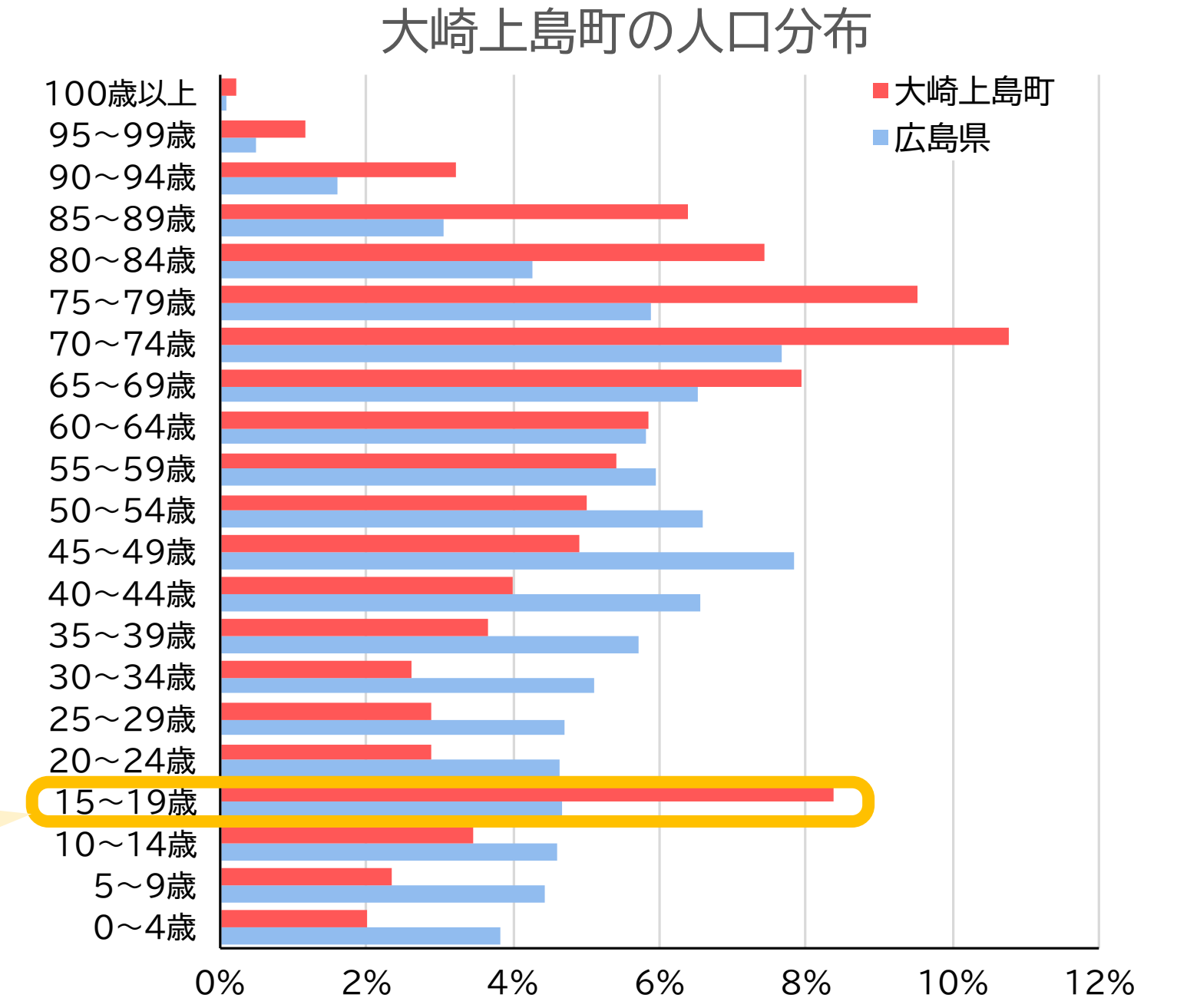
1 背景と目的

大崎上島町
 ・広島県に位置する離島
 ・島外との移動は船のみ



○大崎上島町では定時定路線のコミュニティバス（おと姫バス）が運行されているが、高齢者利用が中心で、利用が低迷している。また、町民からは「ダイヤ・コースが複雑で分かり難い」との声を聞くことも少ない

大崎上島町には学生寮のある高校が複数存在し結果15～19歳の割合が高い



○現在の通常運行に加えて、期間限定でデマンド型での実証運行を行い、当町での適合性や持続に向けた課題を明確にするとともに、特に学生（寮生）が多い地域性を活かして、新しい需要としての学生利用の可能性について確認することを目的とする。

2 プロジェクトの内容

実験期間	令和4年11月17日(木)～12月16日(金)
運行時間	午前7時～午後6時
利用料金	大人100円 小学生以下50円 未就学児は大人の同伴者1名につき1人無料 障害のある方とその同伴者は50円
乗降ポイント数	93か所
予約方法	スマートフォン等(WEB)及び電話(65歳以上)

- ・1か月間の2台の車両を準備し実証運行、運行時間や利用料金については既存のおと姫バスと同様に設定
- ・デマンドバスの利点を活かすため、乗降ポイントを密に設定(既存のおと姫バスの停留所数は39か所)
- ・予約方法はWEBを基本とするが、65歳以上は電話予約も可とした
- ・利用促進に向けて高齢者巡回相談員への説明会を実施し、その際に参加者自身のスマートフォンでの登録サポートも実施
- ・その他、デマンド型おと姫バスの利用促進及び多様な活用策を検討するため、学生ワークショップ実施、貨客混載を試行

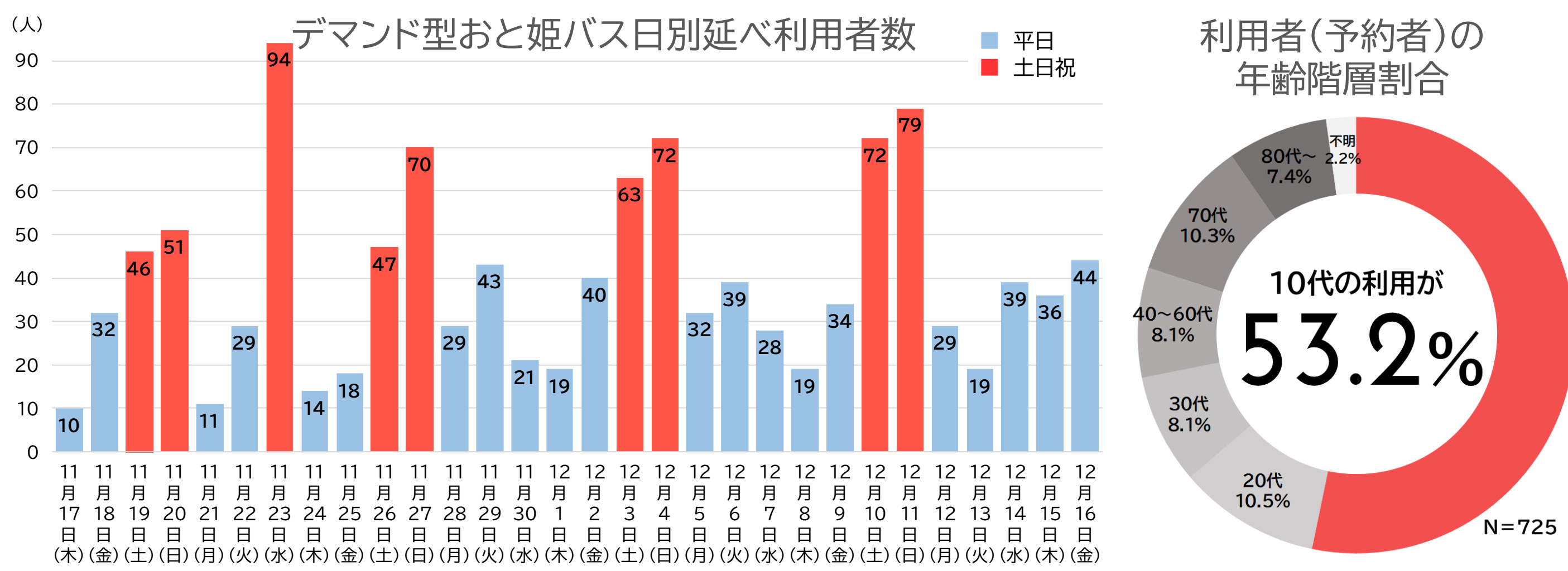


デマンド型バスのポスター

3 効果

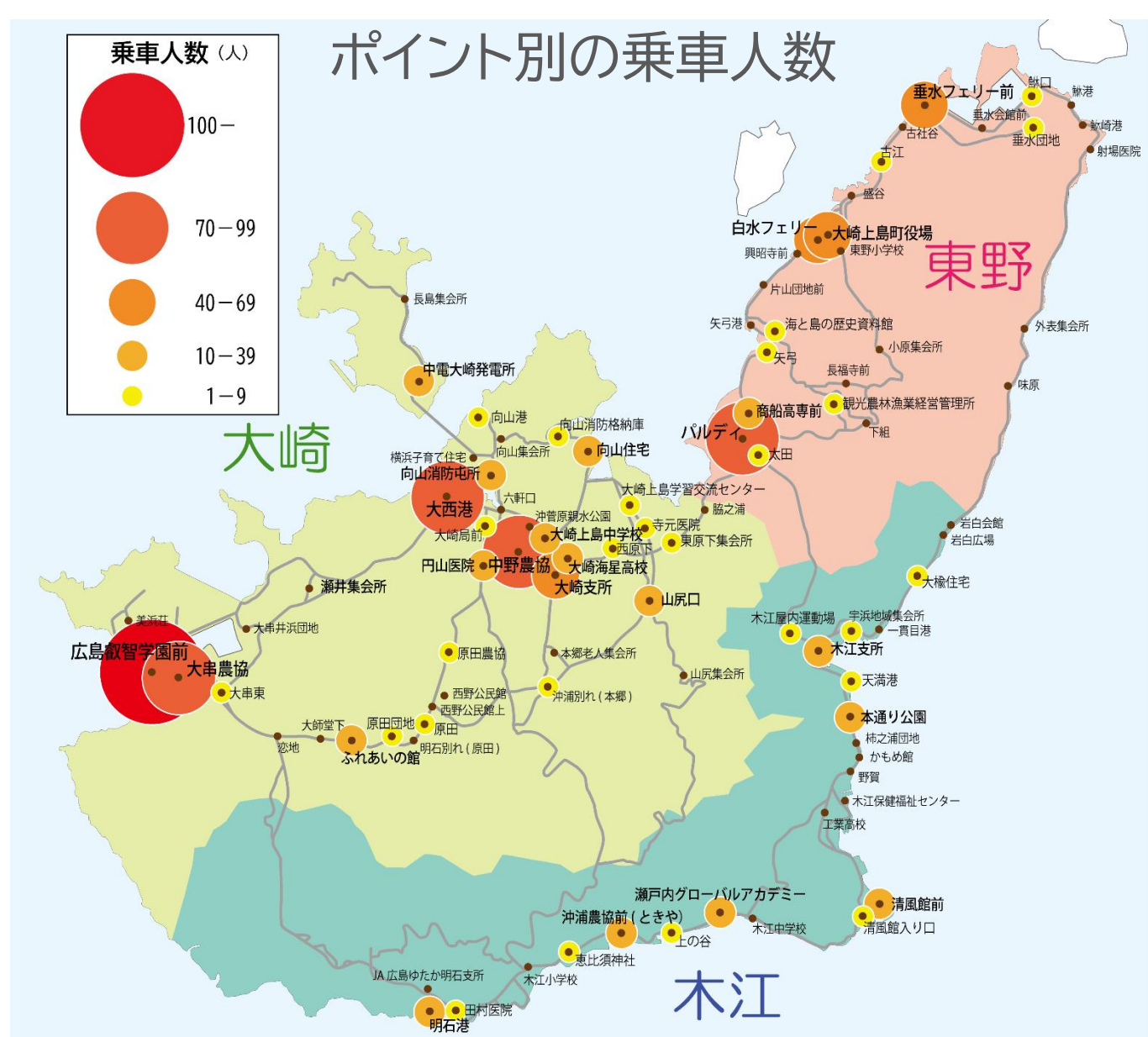
○延べ利用者数・利用者属性

- ・実証期間中に延べ1,179人、1日平均39.7人が利用
- ・平日と比較して、休日の利用が多く、最も多い日には94人が利用
- ・年齢別にみると、10代の利用が半数以上



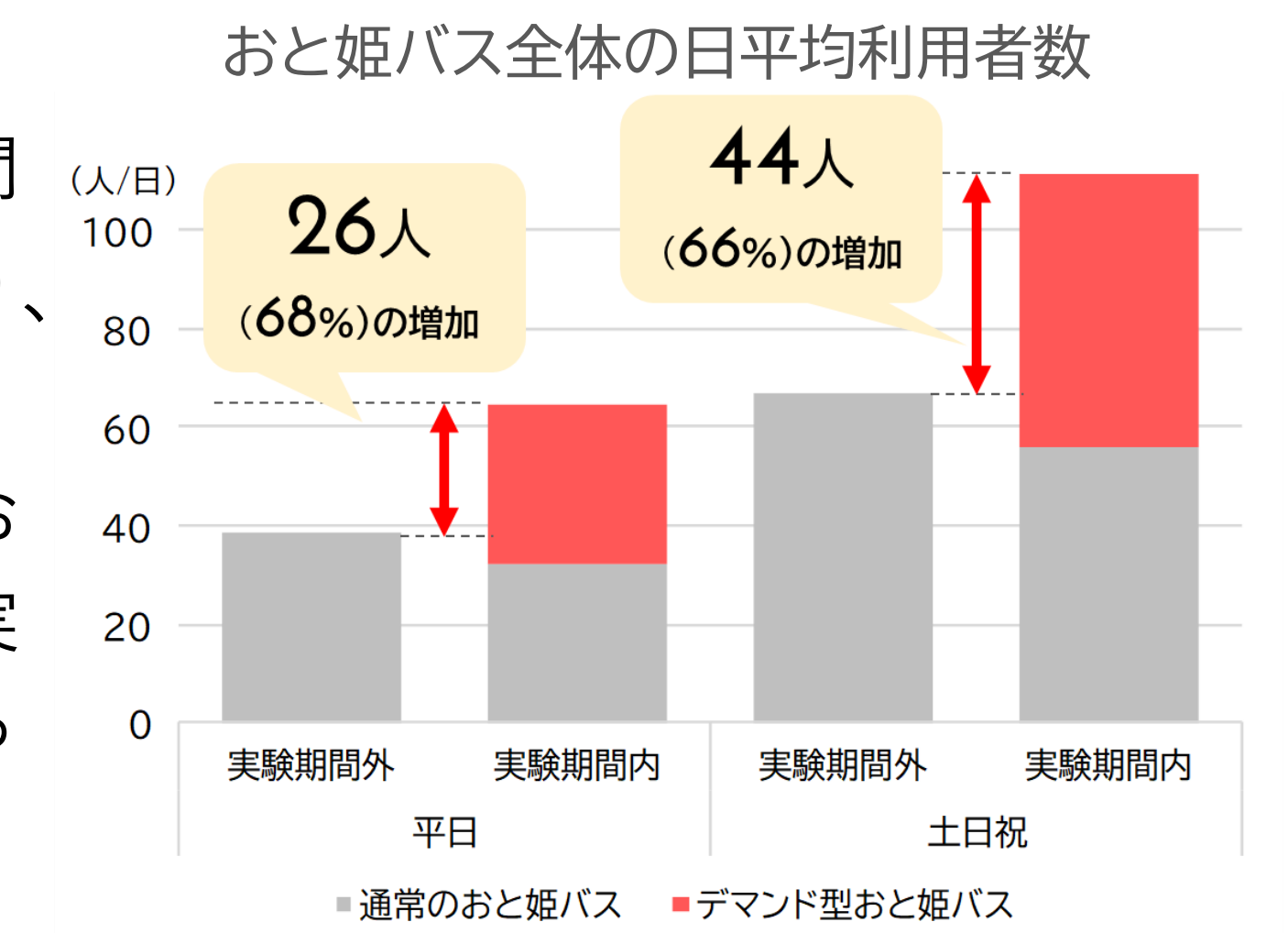
○乗降ポイント

- ・広島観智学園前、大串農協に関連する利用が全体の52%を占め、広島観智学園の生徒や教員の利用が多い
- ・その他、周辺に店舗施設等があるポイントや、大西港/白水港/垂水港での利用が多い



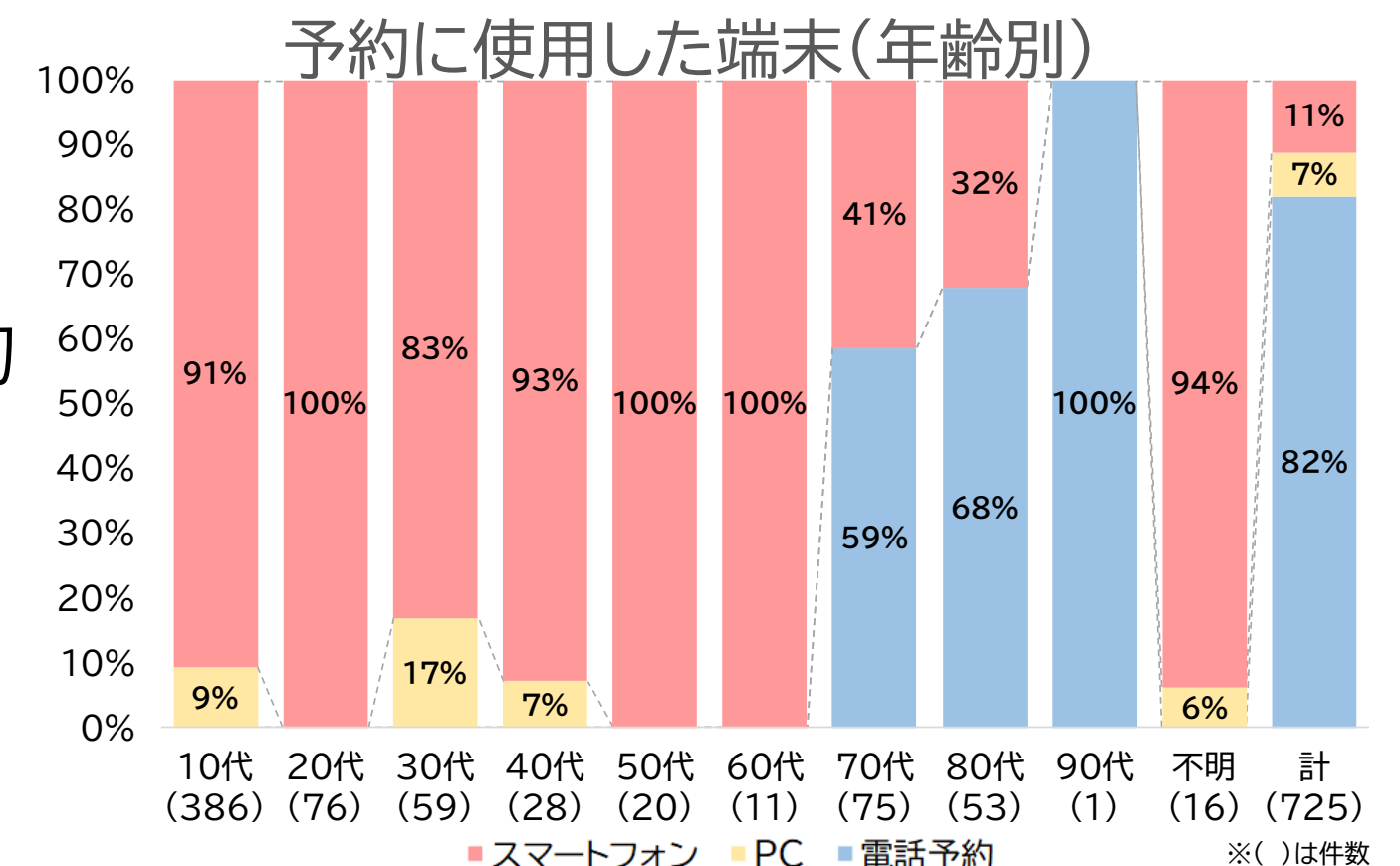
○デマンド型への移動の転換調査

- ・実験期間中にデマンド型に転換して既存のおと姫バスの利用者が減少したかを確認するため、実験期間内・外で各30日間の利用者数を集計(令和4年11月と12月を集計)
- ・結果、実験期間中は、それ以外の期間よりも日平均利用者数が減少しており、一部はデマンド型に転換している
- ・ただし、減少した人数はデマンド型おと姫バスの利用者数よりも少なく、実証運行に伴いそれまで公共交通を使っていなかった町民等の利用がみられた



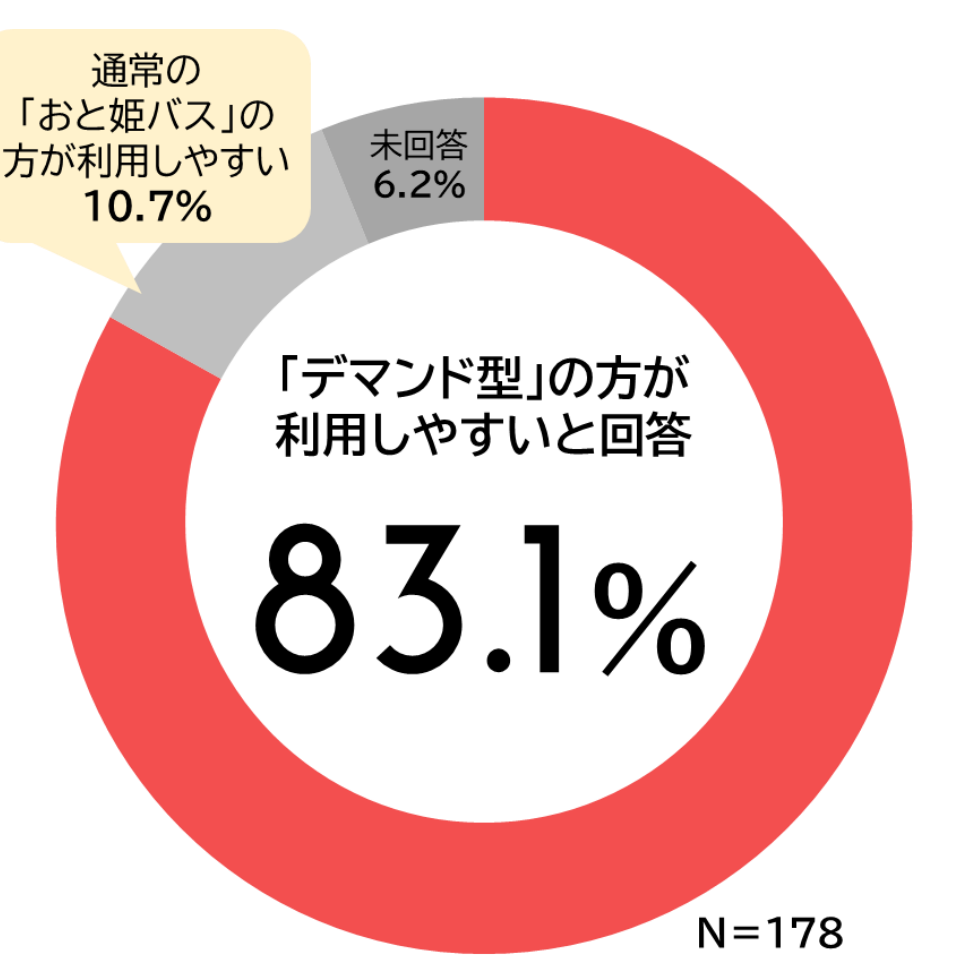
○スマートフォンの利用

- ・WEB予約を基本として周知したため、約9割がスマートフォン/PCから予約
- ・65歳以上のみ電話予約を可能としたが、70代でも41%、80代でも32%がスマートフォンから予約



○利用満足度

- ・約83%の回答者がデマンド型の方が利用しやすいと回答
- ・年齢階層別にみると、通常のおと姫バスの方が利用しやすいとの回答は60歳代以上のみ(≒登録/予約が難しかった登録者)
- ・ただし、どの年齢階層においても、過半数はデマンド型の方が使いやすいと回答



4 結論

- 一般的なコミュニティ交通（おと姫バスも同様）は高齢者の利用が大半であり、今回の実証運行は特異な結果といえる。
- すなわち、本町の若い世代は「交通サービスを持続可能とするために活かすべき、新しい利用需要」であることが確認でき、各種利用促進施策が需要顕在化を支えたと考えられる。実証で得た結果を踏まえて、今後は、本格運行を目指すと同時に、学校と連携した需要創出に向けた施策等の継続が期待される。